

# 論文から読み解く新型コロナウイルス感染症

科目責任者：増 田 道 明（微生物学講座）

## I. 前 文

2019年に始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、瞬く間に世界に拡がり、世界保健機関（WHO）がパンデミックを宣言するに至りました。収束の見通しが不透明な状況にあつて、学術的根拠のある情報を理解しておくことが重要です。この科目では、COVID-19に関する研究論文（英文）を教材としながら、データやエビデンスに基づく情報の収集や分析を行う能力を身につけることを目標としています。

## II. 受入可能人数

若干名。

## III. 担当教員

増 田 道 明（微生物学）

## IV. 学習内容

- ・教材とする論文を事前に指定し、各受講者の分担箇所を決めておきます。
- ・受講者は分担箇所について授業前に精読して内容を整理し、要点をまとめておきます。
- ・（必要な場合は、担当教員が適宜サポートします。）
- ・授業の際は、各人が自身の担当箇所についてお互いに説明し、質疑応答を行います。
- ・担当教員が補足の解説を行い、必要に応じて追加情報を提供します。
- ・論文の要点や意義、問題点などについて意見交換を行って考察します。

## V. 学修の到達目標

- ・英語の学術論文の読み方のコツを身に付ける。
- ・学術論文の要点を抽出し、内容を理解する。
- ・学術論文の内容について、他者に分かりやすく説明できる。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する情報を整理し、他者に説明できる。

## VI. 成績評価の方法・基準

事前学習の到達度、授業時の説明の内容や方法、出席状況などに基づいて評価を行います。原則として「合格」（100点）、「不合格」（50点）の2段階評価としますが、到達度に応じて調整する場合があります。

## VII. 使用する教材・資料など

教材として用いる論文（オンラインで入手可能なもの）を事前に指定し、その都度、入手方法を説明します。

## VIII. 質問への対応方法

質問は、微生物学講座（基礎医学棟3階）で対応するほか、メール（m-masuda@dokkyomed.ac.jp）でも随時受け付けます。

## IX. 求められる事前学習、事後学習\*（ ）内は所要時間の目安

事前学習：各回の教材となる論文について目を通す。分担箇所がある場合は精読し、要点をまとめたプレゼンテーション用ファイルを作成する（15～60分）

事後学習：各回の論文について、自分の分担箇所以外もなるべく精読し、微生物学関連の書籍、他の論文、インター

ネット情報等を用いて理解を深めておく（30分）。

X. コアカリ記号・番号

A-2, A-8, A-9, C-3-1)

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

授業の際のプレゼンテーションについては、その都度フィードバックを行う。最終成績については教務課に提出し、教務委員会と教授会の議を経た後、教務課を通じてフィードバックを行う。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	○
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	